



明けましておめでとうございます。

旧年中は EM を用いた環境浄化活動、ならびに「善循環の輪」拡大にご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございました。

皆様ご存知のように、わたくしたちは生ごみをはじめとする有機性廃棄物の処理問題、水系の汚染といった環境問題に加え、新たに放射能汚染という深刻な問題と対峙しなくてはならなくなりました。

U-ネットの行動規範である「あとから来る者のために」の精神に立ち返ったとき、これらあらゆる環境の問題は個々の地域に属する問題ではなく、将来を担う全ての若者へ影響を及ぼしかねない深刻な問題であると痛感する次第です。

改めて全国の皆様の善意を結集し、より良い環境を取り戻せる一年になることを願ってやみません。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

EM を取り上げた雑誌のご紹介



「自然と人間」1月号(発行元「株式会社自然と人間社」、税込 400 円)にて、宮城県多賀城市で野生動物の保護活動を行っている NPO 法人みやぎ野生動物保護センター・武田修理事長の取材記事が掲載されています。

「野生生物が住める自然をつくる」というタイトルで 4 ページに渡って記事が掲載され、EM の活用について触れられています。

人間の経済行為によって、どのように自然が壊されてきたのかを、野生生物の生態や山林の植生の変化から解説するお話は、宮崎駿監督の映画「もののけ姫」を思い出しました。

センターでの EM 活用の紹介、殺菌や消毒の弊害をご自身の体験に基づいて理解したお話や、自然林と微生物相の間に類似した自然現象を見出すなど、自然を育ててきた方ならではの慈愛に満ちた内容になっています。

是非お買い求めになりご一読ください。

お詫びと訂正(日本橋川浄化活動)

前号(238号)にて日本橋川に遡上した鮭の写真を紹介したところ、「鮭ではなくウグイではないか」とのご指摘をいただきました。ご指摘を受け専門家の判断を仰ぐために、すみだ水族館、井の頭自然文化園それぞれの専門施設に下記4枚の写真を送り鑑定をお願いしたところ、二カ所の担当者共に「ウグイの仲間であることに間違いはない」との回答をいただきました。

これまで本通信で二回に渡り(215号・238号)、ウグイを鮭と間違えて紹介しましたことを、お詫び申し上げます。

今後、情報発信の精度を高めていきますと共に、日本橋川が更に生態系豊かな河川になるよう努めて参りたいと存じます。

また、荒川の河口で鮭が見つかったという公式な記録があるようですので、日本橋川周辺に鮭が存在する可能性は否定できません。今年度は調査を更に徹底いたします。

稚魚放流事業も昨年に引き続き、今年も継続実施する予定です。

皆様には誤情報を発信しご迷惑をお掛けしましたこと、お詫び申し上げます。



EM を用いた河川浄化グループが新聞で紹介されました

2012年12月22日付、朝日新聞夕刊9面(全国版)にて「最も汚かった川アユ育つ」と題し、大和川(奈良県から大阪府に流れる一級河川)の生態系が回復されてきた記事が大きく掲載されました。

同記事の中で、大和川上流部の支流に当たる菰川(奈良市)を EM で浄化してきた「菰川を美しくする会(代表:金野秀一氏)」の活動も紹介されています。

10年に渡る活動に敬意を表しますと共に、この度新聞記事で取り上げられたことをご喜び申し上げます。

しかし残念なことに、紙面において EM について触れられることは一切ありませんでした。

これを機に会の活動に弾みがつきますこと、EM による生態系回復の効果が広く知られるようになることを期待しております。